

浜松観光ボランティアガイドの会

20周年記念式典開催

11月25日(月)午前10時からホテルコンコルド浜松において、「浜松観光ボランティアガイドの会20周年記念式典」が開催されました。参加者数は会員103名、来賓6名(内、3名は元会員)でした。

第一部の記念式典では最初に会長の大村眞佐夫さんから挨拶がありました。「平成11年6月にコンベンションビューローと初代会長となられた古橋さんが、温かいおもてなしの心を伝える団体を設立したいという

設立趣意書を浜松市に提出したところから始まり、11月に88名で会が発足しました。以来、機動力の強化を図り、対外的には、浜松まつり風揚げ体験には当初から取り組み、浜名湖花博をはじめとしたイベントへの参加、小中学生の歴史の勉強会の実施などをしてきました。一年を通じて4つの拠点で活動し、毎日実施しているところは珍しいということで自信がつけました。活動する場があるということはあるがたいことで、やらせていただく気持ちで、お客様に精いっぱい対応することが大事です。15年記念式典で発表されたキャッチコピー「明るく 楽しく やらまいか」の気持ちで対応をお願いしたい」と会員を激励されました。

続いてご来賓の、浜松市副市長長田繁喜様、(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー常務理事中西利充様、遠鉄アシスト株式会社代表取締役社長河野延之様からご挨拶を頂きました。長田様からは感謝の言葉に加えて、「浜松市はJALと観光提携をしました。情報発信する対応が不可欠ですが、ボランティアガイド活動で対応ができています。今後ともご支援・協力いただきたい」との協力依頼がありました。

次に、先輩の前会長手塚海司様、初代副会長吉田和子様からご挨拶をいただき、吉田様からは「浜松らしさを出したボランティアガイド」を依頼されました。最後に設立委員の一人であった石田美枝子様の指揮で、全員で浜松市歌を斉唱しました。

第二部の基調講演は、浜松市役所産業部観光・シティプロモーション課長の久米秀幸様が「浜松市の観光政策」について配布資料を基に浜松市の取り組み状況を説明されました。

なお、行政に対する提案・助言等のアンケートを求められました。

基調講演終了後、集合写真を撮り、12時10分から**第三部**の交流会に入りました。昼食が一通り済んだ後、各ブロックの余興が始まりました。順番に①中ブロックが合唱「青い山脈、高校三年生」、②東ブロックがダンス「ビューティフルサンデー」、③西ブロックが太極拳演武、④南ブロックがギター演奏付き合唱「ふるさと、若者たち」、⑤北ブロックが20周年記念相撲甚句を演じました。

続いて、副会長の太田進さんによる「じゃんけん大会」で会場が盛り上がりしました。最後に広報部長の小池輝夫さんによる「一本締め」で、13時過ぎに20周年記念式典が終了しました。

広報部 佐原正敏(中ブロック)



大村会長



浜松市副市長
長田繁喜様



ダンス「ビューティフルサンデー」

研修部主催 浜松城二の丸跡発掘調査座学研修会

11月14日(木)午前10時から12時まで、浜松市民協働センターにおいて浜松市文化財課の和田達也氏による二の丸御殿発掘調査座学研修会が開催されました。参加者は50名でした。



浜松市文化財課和田達也氏の説明

本題に入る前に、「城の歴史などをたどる」としての話がありました。

内容は私たちが理解している知識の復習的なものでした。

- ・南北朝時代から戦国時代にかけて山城が多く築かれた。山城は戦いのための城である。
- ・多くの大名は山裾に居館を建て、山城は防御のための詰城として使用し、その後小高い丘などに平山城を築城するようになった。
- ・戦国時代後期、織田信長の岐阜城と安土城は石垣が多用されており、信長の死後、豊臣秀吉は城を権力の象徴として自身の城の建築に大名たちを手伝わせた。

- ・浜松城の最大時の縄張り、南北650メートル東西600メートル。
- ・通常御殿は平屋建てで瓦は使用されていない。浜松城の二の丸御殿跡からも瓦は出土していない。
- ・浜松城において、石垣は野面石(自然石)を使った布くずし積みで、主に残っている所は藤棚や遊具のあるあたり。
- ・元城小学校の跡地にどのくらい浜松城の痕跡が有るか。など…。

「浜松城二の丸御殿発掘調査については、11月21日(木)元城小学校跡地の現地にて説明しますので本日お配りした『浜松城跡26次発掘調査』『浜松城跡27次発掘調査』の現地説明会資料を必ずお持ちいただき、当日お集まり下さい」とのことでした。



説明を聴講する会員

広報部 中野典子(東ブロック)

地域行事参加 浜松市「新津協働センターまつり」

11月16日(土)、17日(日)に新津協働センターにて、センターまつりが開催されました。

私達南ブロックに所属する会員延10名は、体育館内2間分のパネルを借りて観光ボランティアガイド活動の写真を掲示し、テーブルに観光名所のパンフレットを並べて、活動の内容や観光名所を説明しました。そして、「養成講座」の資料をもとに、新入会員を募りました。



観光名所を説明している様子

パンフレット等の配布状況は、①浜松城=23枚、②犀ヶ崖古戦場=20枚、③ようこそ出世のまち浜松へ=10枚、④浜松まつり会館=9枚、⑤浜松市中心部徒歩観光コース=26部、⑥養成講座案内「ガイドしてみませんか?」=16枚でした。

皆さんの反応は、活動の写真を見て「とても楽しそうでやりがいのある活動ですね」のような誉め言葉を頂きましたが、会員勧誘には「ずいぶん勉強しないとやれないでしょう」と言って遠慮する意見がありました。当

コーナーへの来客も少なく、来年はお客さんを引付ける仕掛けを検討したいと感じました。

南ブロック 古本俊夫

研修部主催 浜松城二の丸跡現地説明会

11月21日(木)10時～12時秋晴れのもと、浜松城二の丸跡(旧元城小学校)にて、研修部主催による発掘調査現地説明会が開催されました。参加者は58名でした。



二の丸跡にて和田さんの説明を聞く会員

講師は浜松市文化財課の和田達也さんで、今回、当会向けに本説明会が開催されました。

会員の皆さんは、旧元城小学校入口に集合し、冒頭、和田さんから浜松城の歴史や特徴の概要説明があり、その後、今次発掘調査の意義が述べられました。

現場説明は、下図の順序(④→③→②→①→⑤→⑥)で行われ、以下順を追って概要を述べます。

④秀忠お誕生場と二の丸の境界：この境界は低い方が二の丸で、高い方がお誕生場です。お誕生場は特別な場所のため特別に、高低差を付けたとのことでした。

③石垣と堀：堀は二の丸と本丸の境界をなし、チャートの

自然石を用いて造られた石垣は、ここから西側に本丸曲輪を形成する目的で積み上げられたそうです。

堀の幅は10m、深さは2m以上で、このあたりから南に伸びていたようで、ここからも当時、本丸、二の丸がいかに広い面積であったかが伺えます。②井戸：浜松城周りに10カ所あったと言われるもの以外で、素掘り、又は埋め戻す際に木枠のようなものを撤去したとも考えられるそうです。又、今後発掘調査が進むと、さらに未確認の井戸が発見されることもありそうです。

①、⑤瓦だまり：江戸時代の瓦がまとまった状態で出土されました。

本丸にも同じことが言えますが、二の丸のように高貴な人々が住む建物には瓦が使われていなかったようです。おそらく、檜皮葺又は茅葺の屋根仕様であったろうと説明されていました。

このようですと、本丸跡、二の丸跡の発掘調査を進めても、これらの屋根瓦が発見されることはなさそうだったとのことでした。



発掘調査中の場所



ポイント①の瓦だまりの説明

逆に、二の丸御殿以外の建物、長屋や塀等で瓦屋根が使われていたことが考えられます。右上図で足軽などが住んだ長屋が想定されますが、この建物では瓦屋根が施されていたようです。

瓦の作り方も時代を追うごとに進歩して行き、粘土の状態でのトリム方法は糸から針金に進歩。焼き方は、素焼きからいぶし焼に進歩したそうです。いぶし焼は江戸中期以降ですが、表面を炭素コーティングし、美しく耐久性の高い瓦になったようです。

⑥礎石：礎石の石材はチャートで、80 cm×60 cmの大きさで

す。その隣にやや小さな礎石も発掘されています。大きな建物の柱用の礎石は1.2m角程度の石が使われていたと考えられます。発掘された礎石は、メインの建物以外のものに使われていた可能性が高いとのことでした。又、隣の小さな礎石は、縁側のようなものの下に敷かれていたであろうとのことでした。

和田さんから、「二の丸の発掘調査は未だ緒に着いたばかりだが、効率の良い発掘方法が見つかり、浜松城推定復元図の精度を高めて行けると思う」との言葉がありました。

文化財課のご活躍を祈ると共に、一連の発掘調査結果が、よりアピール性の高い公園整備やジオラマ作成に繋がることを期待します。

広報部 古本俊夫(南ブロック)



ポイント⑤の瓦だまりの説明

中ブロックミニ研修 「細江町の古跡を歩く」

11月18日(月)中ブロック20名、他ブロック6名、計26名という高出席率で、中ブロックミニ研修「細江町の古跡を歩く」を行いました。この研修の計画と案内は、元細江町でボランティアガイドをしていた中ブロック小池孝幸さんです。

午後から天気が崩れるとの予報でしたが、天気も良く、午前中は10時から気賀関所、堀川城跡、獄門堰・櫓形を見て回り、天浜線横断をし、北区第2駐車場に戻りました。気賀関所では向番所の牢屋体験を含めて、堀川城跡では守る地元の農民男女が1,000人などで斬りにされ、6カ月後には更に700人が処刑され、打首をさらされた獄門堰(ごくもんなわて)、更にその東側の櫓形を小池さんがとても分かりやすく、説明していただきました。又、まだまだ知らない歴史を教えてください、こんな風にガイドをすれば良いのだと、そちらも勉強になりました。



堀川城跡で説明を受ける

北区第2駐車場からは、車に便乗して「奥浜名湖荘」で昼食を食べた後、細江公園文学の丘、展望台を回りました。展望台からの細江町の町はもちろん、アクトまで見渡せて素晴らしい景色にびっくりしました。続いて、姫街道と銅鐸の資料館の駐車場に移り、地元住民が気賀関所を通らずに通行できた犬くぐり道の説明を受けました。資料館は休みでしたが、隣接している産屋の説明を聞いて、細江神社に移りました。細江神社では明応の大地震で新居から津波により運ばれてきたご神体や境内にある蘭草(いぐさ)神社などの説明を受けました。

最後になりますが、朝10時集合、一部車を使用(皆さんの体調を考慮)して、14時30分散散という絶妙な日程を組んでいただき、小池さん本当にありがとうございました。

中ブロック 古賀伸江、佐原正敏

11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体

* 阪急交通社	2回	62名	
* JTB	3回	180名	
* ニコニコツアー大井川鉄道	3回	84名	
2日 土 華の会		28名	
5日 火 丸富士交通		42名	
6日 水 アソカ学園美波幼稚園		73名	
8日 金 二俣小学校		52名	
		大草の歴史と文化を学ぶ会	30名
9日 土 ビーアイティ		32名	
12日 火 商網学院高等学校特進コース2学年		37名	
13日 水 ホンダトラベルサービス		54名	
15日 金 2019年度すまいる会研修会		67名	
		小田急トラベル	31名
16日 土 施工技術総合研究所		31名	
19日 火 YUT中国人団体		31名	
21日 木 県庁友の会県西支部		30名	

23日	土	三緑証券(株)三重ブロック	39名
27日	水	クラブツーリズム名古屋	41名
28日	木	追分小学校	27名
		山梨県高根町老人クラブ連合会	30名
	*	上記以外に26名以下の55団体	874名

《犀ヶ崖資料館》

16日 土 三川歴史研究会	26名
---------------	-----

《浜松まつり会館》

8日	金	岡谷市区長会	34名
15日	金	白鷺小学校	151名
18日	月	越谷ロータリークラブ	20名
		蟹江町長寿会連合会	100名
20日	水	和田小学校	62名
		東部地区老人クラブ連合会	69名
28日	木	JAさがみ茅ヶ崎地区年金友の会	37名
	*	日曜対応(3、10、17、24日)	402名

はままつ案内人会報 213号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2(浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



出世大名 家康くん

出世浪跡 直虎ちゃん

はままつ案内人

検索